



井の頭自然文化園開園100周年カウントダウン新聞

19号
2014年11・12月号

2014年(平成26年)11月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 気付
電 話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと2年6ヵ月

絵と文
せのうさちこ

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。
アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。

INFORMATION 2014年11月~12月

井の頭自然文化園

●「ヤマネコ祭」—ツシヤマネコってどんな動物? 対馬での今の状況は?

長崎県対馬に生息する絶滅危惧種ツシヤマネコの保護と繁殖に取り組んでいる井の頭自然文化園では、2014年11月15日(土)、16日(日)を中心に、「ヤマネコ祭」を開催します。盛りだくさんのイベント、ぜひご参加ください。



メイン会場 芝生広場
内容 ヤマネコ関連団体の活動紹介展/クイズラリー/ワークショップコーナー/ヤマネコフェイスペイント/ねこバスふわふわ/三鷹の森ジブリ美術館 PRコーナー (※参加費が必要となるイベントもあります。)

- ヤマネコミニ講演会
● 場所: 動物園(本園) 資料館2階集客室 ● 定員: 60名(当日先着順の自由席です。)
11月15日(土) 第1回: 10時30分~11時30分
テーマ: ツシヤマネコを守るために
—国内の飼育状況と井の頭自然文化園での飼育—
第2回: 13時30分~14時30分
テーマ: ツシヤマネコの生息域内での現状と課題
11月16日(日) 第3回: 10時30分~11時30分
テーマ: ツシヤマネコを守るために
—様々な研究とその成果を活用した取り組み—
第4回: 13時30分~14時30分
テーマ: 対馬の自然とツシヤマネコ

● ヤマネコミニ特設展
ツシヤマネコについて楽しく学べるミニ特設展を開催します。

● ヤマネコの絵本読み聞かせ
ヤマネコをテーマに、絵本の読み聞かせを行います。
11月15日(土)、16日(日) 各日11時30分~12時・14時30分~15時

● ヤマネコ祭ファイナーコンサート
ヤマネコ祭の最後を、親子で楽しめるコンサートで締めくくります。
11月16日(日) 15時30分~17時頃まで

● 彫刻館特設展「ヤマネコ芸術祭」
10月28日(火)~11月30日(日) 9時30分~16時30分

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html>

井の頭かんざつ会

- 第115回「動物園」 11月29日(土) 10:00~12:00
- 第116回「テーマ未定」 12月20日(土) 夕刻(時刻未定)

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

1級渡辺安浩のいのけん受験講座 答え合わせ

- Q1 (1) 江戸名所図会
全七巻のうち巻の四天現の部に「井頭弁財天宮」「井頭の池」として登場。
- Q2 (3) 歌川広重
歌川豊広に入門、本名重右衛門より歌川広重の名を与えられる。
- Q3 (1) 名所江戸百景
(見どころは「江戸百景」と覚える)



アートマーケットと ハズンアーティストな人々

Happy Elephantさん
(イラストレーター/アクセサリー作家)



春から出店している
吉田純子さん(右)と玄さん

「幸せぞうさんお描きします」の看板につられてオーダーしたら、吉田玄さんの握る布ペンがトートバッグの上を滑り出しました。待つこと10分。下描きもせずに、リクエスト通りの「おしゃべりする親子ぞう」の完成です。
玄さんは小学5年の遠足で行った多摩動物公園で「ぞうがどうやって寝るのか」に興味を持ち、以来、無類のぞう好き。全国各地の動物園に通い、ぞうをじいっと見て、その姿勢、体型、しわの様子などを記憶しています。イラストは1点1点、どこの動物園のどのぞうなのか、描き分けているというから驚きです。今年の春、高校卒業を機に母親でジュエリーアーティストの純子さんとユニットを結成。純子さんは、玄さんのぞうイラストをモチーフにしたペンダントやストラップなどをつくっています。

玄さんは出店中も午後2~3時には、はな子に会いに井の頭自然文化園に行きます。その間ライブペインティングはお休みですが、玄さんのポストカードや純子さんのアクセサリーとともに、純子さんが出迎えてくれます。



みるみるうちに無地の布地に
ぞうが描かれていきます

小田原 滯 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。
アートマーケットは、主に土・日・祝日に開催しています。
特例で12月24日(水)は開催いたします。12月27・28日は開催いたしません。

はな子の冬支度

季節が巡るのは早いもので、前回のいのきちさんで暑さ対策について紹介したばかりと思っていたら、今回はもう冬支度の話題です。今年の秋は例年になく涼しく、残暑をあまり感じさせないものでした。10月に入ると肌寒ささえ感じるほどで、寒がりのはな子にはつらい季節がやってきました。先日までの冷房を暖房に切り替え、シャッターを半開にして暖気を逃さぬよう注意します。さらに気温が下がれば、ガスヒーターを併用し、室内温度を25℃設定としますが、広い室内はそれより若干低めの温度に保たれます。

ちなみにのはな子の大きな体が実際に温まっているか、毎朝放射温度計で体表温をチェックするのが獣医師の日課になっています。こうしたきめ細かい健康管理がはな子の長寿記録更新の秘訣といえるでしょう。

(飼育展示係長 山本藤生)



▲体表面の温度測定に使っている放射温度計

井の頭公園の生き物たち



ナマズの成魚と幼魚

ギギとの明暗

このナマズ(ナマズ科)のほか、井の頭池にはギギ(ギギ科)というナマズ目(もく)の魚がいました。両者は体型が似ているものの、尻びれと尾びれの形がまったく異なるので区別は容易です。どちらも本来は西日本の魚ですが、かいぼりでは、ナマズは在来生物として保護対象となり、ギギは国内外来生物とされ駆除対象になりました。外来生物法では明治時代以降に国外から持ち込まれた生き物を外来生物と定義しており、それに準じて、江戸時代に東日本に移入され、井の頭池にもかなり前から生息しているナマズと、近年井の頭池

予想よりはるかに早く、前号が出る前の8月末に、カイツブリの楽園は一気に崩壊してしまいました。七井ペアの末っ子が死体で発見されたのを皮切りに、まだ飛べないはずのものも含め、井の頭池のヒナたちが全て姿を消したのです。ヒナだけでなく、親鳥たちも池を去って行きました。個々の事情は不明ですが、主因がブルーギル稚魚の激増による食糧難にあることは間違いないかと思うので、モツゴを見つけて捕まえるのは至難の業でしょう。
それでも一部の親鳥は池に留まり、今は移動期でもあるので、見かけるカイツブリが増えています。現在井の頭池にいるカイツブリたちは、在来生物だけでなく、ギルの稚魚も時々捕って食べているようです。とはいえ、子育てができるほどギル稚魚捕りの腕を上げるのは無理でしょう。楽園が復活するには、次回のかいぼりでブルーギルを今度こそ完全に駆除するしかないでしょう。

8月26日に見つかった七井ヒナ

井の頭かんざつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

に放されたと考えられるギギの処遇が分かれたのです。結局、かいぼりで保護されたナマズは約40匹、駆除されたギギは140匹以上でした。

ギギは稚魚も見つかり、繁殖していたことが確認されています。一方のナマズは、産卵場所として好む泥底で水深が浅く抽水植物が生えた水域も存在し、繁殖期の夜には産卵行動中のカップルも見かけるのに、稚魚や小さな個体が見つからない状況が近年続いていました。ところが、かいぼり後の5月、ナマズの稚魚が次々に発見されました。稚魚が見られなかったのは、コイやブルーギルやオオクチバスなどに卵や稚魚を食べられてしまっていたからだだと分かったのです。ナマズは卵を産みっ放しにします。それに対してギギは、岩の間に卵を産み、それをオスが守ります。

ナマズの稚魚の成長は目を見張るほど早く、やがてザリガニワナに幼魚が夜の間に毎日複数入るようになり、9月には全長が30cmを超えるものも現れました。アメリカザリガニを食べていた外来魚が駆除された今、ザリガニを減らしてくれそうなる在来生物のエースです。もっとも、その大食漢ぶりからすると、在来の小魚やエビも相当数食べているに違いありません。しかしながら、長い歴史の中でナマズと共存してきた在来生物は、ナマズのせいで絶滅してしまうことはないと考えられています。



ナマズの稚魚

19 楽園崩壊

「楽園はよみがえるか!」
カイツブリ通言
老れいぬ水に泳がせぬ!

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。